

TRAFFIC SCOPE

交通参加者の行動を観察する

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

道路を横断する高齢者の左右確認状況を観察する

DATA 基礎情報

高齢歩行者の交通死亡事故は
7割以上が道路横断中に起きている

警察庁の資料によると、2025年の歩行中の交通事故死者数のうち高齢者(65歳以上)は約7割を占めている。さらに、高齢者の歩行中死者数(第1・第2当事者※)を事故類型別にみると、7割以上が道路横断中

で、その内訳は横断歩道横断中が36.0%、横断歩道以外横断中が64.0%だ。実際に、高齢者は道路をどのように渡っているのだろうか。今回は、横断歩道がある道路と、横断歩道がない道路を渡る高齢者(65歳以上)を観察した。

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

WATCHING 観察

横断が禁止されている道路を
渡る時は左右を慎重に確認していた

観察場所Aは、神奈川県藤沢市のJR「藤沢駅」近くの横断歩道。2時間に横断した高齢者は71人で、横断する前に左右を確認したのは33人(46.5%)だった。このうち10人が横断する前に立ち止まった。左右を確認しない人は前方の歩行者に追従していたり、日傘を前に傾けて差しているケースで見られた。杖をついていたり、買い物カートを押しながら歩く高齢者は視線が下に向きがちだった。横断する意思を示すために手を上げた高齢者は一人もいなかったが、横断歩道の手前でクルマが停止した場合は会釈やハンドサインで、ドライバーに謝意を表す高齢者がいた。若年層

では“ながらスマホ”で(スマートフォンを注視しながら)横断する歩行者もいたが、高齢者では見られなかった。観察場所Bは東急電鉄「松陰神社前駅」から約200mの場所にある片側一車線の幹線道路。横断歩道はなく、横断禁止(わたるな)の標識があるが、2時間に49人が横断し、そのうち30人が高齢者だった。往来する車両が多く、その速度も高いため、30人全員が横断する前に立ち止まって左右を見回していた。年齢が高いほど、左右からの車両が途切れる(またはクルマが完全に停車する)まで待っていた。横断歩道(信号機あり)はBから左右約100m先に設置されている。ここを横断する歩行者の多くは、近くにあるスーパーマーケットやバス停を利用することが目的と思われる。小・中・高校生や親子連れの横断は見られなかった。



停車してくれたクルマのドライバーにハンドサインで謝意を表す高齢者(観察場所A)

ADVICE アドバイス

横断歩道があっても渡る前に
周囲の安全を確認する

観察場所Bを渡る高齢者は、自分がリスクを冒しているという自覚があると思われ、横断する前に立ち止まり、左右から接近する車両の様子を確認していた。しかし、横断が禁止されている場所を渡るという行為はたいへん危険だ。自分が事故の被害者にならないためにも、道路を渡る時は横断歩道(歩道橋、横断用の地下道)を利用してほしい。一方、観察場所Aでは横断歩道を渡るという

安心感からか左右を確認した高齢者は半数以下という結果だった。左右を確認しないのは高齢者に限らない。若年層の“ながらスマホ”での横断は視線が下に向いたままで、周囲の状況に意識が向いていないように感じられた。横断歩道を利用していても、車両の運転者から見落とされる場合もある。特に、信号機のない横断歩道では、渡る前に周囲の安全を確認し、横断の後半では左側から車両が接近していないか確かめてほしい。車両の運転者は、横断歩道での歩行者保護とともに、横断歩道がない場所でも道路脇に歩行者が立っていたら「渡ってくるかもしれない」と予測しておくことが必要だ。

観察結果

観察場所 A

神奈川県藤沢市
JR「藤沢駅」付近
観察日／8月14日(金)
観察時間／14:00～16:00
天候／晴れ



観察場所Aは駅のロータリーに隣接する横断歩道

●高齢者*(65歳以上)の横断前の安全確認状況

左右を確認した	33人(46.5%)	視線を前に向けていた	63人(88.7%)
左右を確認しなかった	38人(53.5%)	視線を下に向けていた	8人(11.3%)
合計	71人	合計	71人

*高齢者(65歳上)の判断は観察者の見解による。



手押し車を使用する高齢者。クルマが止まったのを確認してから渡り始めた



日傘を前に傾けて歩いていると周囲の状況が確認しにくいように感じられた



杖を使用している高齢者は視線が下に向きがちだった



スマートフォンを注視したまま歩く歩行者は若年層で散見された

観察場所 B

東京都世田谷区
世田谷4丁目付近
観察日／8月19日(水)
観察時間／16:10～18:10
天候／晴れ



観察場所Bには横断禁止の標識が設置されている

●高齢者*(65歳以上)の横断前の安全確認状況

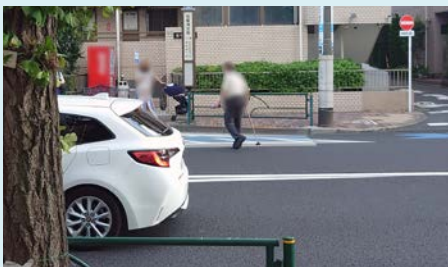
左右を確認した	30人(100%)	視線を前に向けていた	27人(90.0%)
左右を確認しなかった	0人(0%)	視線を下に向けていた	3人(10.0%)
合計	30人	合計	30人



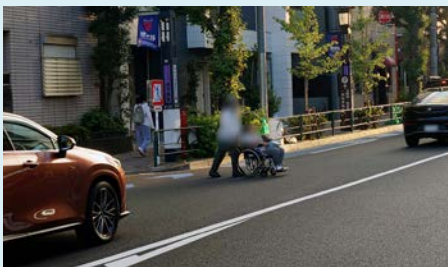
観察時間中は車両の往来があったため、横断する前に立ち止まって左右を確認していた



買い物カートを引いていたり、買い物袋を持っている高齢者は歩く速度が遅くなりがちだった



反対側のバス停に向かうために道路を横断する高齢者



中には車いすを押しながら横断する人もいた